

活動報告

ウラジオストク・モスクワ出張記

——渡航準備から帰国後の自己隔離まで——

ERINA 調査研究部主任研究員
三村光弘

はじめに

2021年2月28日から3月7日の間、ロシアのウラジオストクおよびモスクワに出張する機会があった。ロシアは新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大を受け、2020年3月16日付のロシア連邦政府指令 No.635-r 号で外国人の入国を一時的に制限する措置を発表した後¹、同年10月14日付ロシア連邦政府指令 No.2649-r 号により同年11月より日本は、その国民が空路経由でロシア連邦に入国を許可される国の一覧に入ることとなった²。当初は、日本からの直行便（ウラジオストクおよびモスクワ）での入国に限られた措置であった。2021年4月16日からは、ロシアが発表する「定期便再開国リスト」に掲載されている国からの入国も可能になっている³。

1. ロシア入国のための要件

2021年5月1日現在、日本からロシアへの入国には通常と同じくビザが必要である。すでに2020年10月20日よりロシアビザの発行は再開されている⁴。筆者はちょうどロシア入国が制限されている間にビザの期限が切れるため、2020年3月に新たな

ビザ申請をすべく、招待状等の必要書類を揃え、同月18日にビザを申請予定であったが、その日の朝に、ロシアが外国人のビザ申請を一時中断するとの報道があり、ビザ申請受付の再開を待っていた。10月下旬に同じ書類で、ビザ申請書だけを新たにロシア外務省のシステムで作成の上、在新潟ロシア総領事館に申請したところ、ビザが発行された。裏面に「RUS」記載がある APEC ビジネストラベルカードでも入国が可能になっている。COVID-19に関連して、ロシア入国には査証カテゴリーに関わらず、ロシアへの渡航直前3日以内に受けた PCR 検査の結果として新型コロナウイルス感染について陰性であることを証明する文書（ロシア語又は英語のもの）が必要となっている⁵。

入国後は、労働活動のためにロシアに到着する外国人（労働ビザ所持者）とその同伴家族については14日間の自己隔離が求められているが、それ以外のビザカテゴリーに関しては、自己隔離は求められていない。

2. ロシアへの出発準備

——COVID-19陰性証明の取得

ロシア入国に必要な COVID-19陰性証明書は PCR 検査であるということと、ロシアへの出国便出発時刻の72時間以内に受けた（検体を採取された）検査であることが要件となっている。したがって、検体を取る場所（鼻咽頭ぬぐい液なのか唾液なのか）などについては特に指定がなされていない。

筆者はウラジオストクへの航空便が出発する成田空港第1ターミナルにある成田国際空港 PCR センター（写真1）で PCR 検査を受けた。同センターは第1ターミナル中央ビル3階にあり、24時間体制で PCR 検査を行っている。ホームページでは受付から最短2時間で証明書が発行されるとあるが、筆者が出発前日の2021年2月27日に訪問したときには、受付から証明書交付までが4時間と表示されていた。所要時間は混雑の具合により、2時間から6時間くらいまでの間で推移するとのことなので、搭乗手続を行う6時間から8時間前には検体採集を終えるようなスケジュールで受診するのがよさそうである。

検査料金は筆者が受けたときには陰性証明書の発行料金込みで32,500円であったが、現在は予約ありで時間内（曜日関係なく9:00～16:59の検体採集であ

¹ 在日ロシア大使館ホームページ：https://tokyo.mid.ru/web/tokyo-ja/consular-news/-/asset_publisher/leWNR9wO23fc/content/---227?inheritRedirect=false&redirect=https%3A%2F%2Ftokyo.mid.ru%3A443%2Fweb%2Ftokyo-ja%2Fconsular-news%3Fp_id%3D101_INSTANCE_leWNR9wO23fc%26p_p_lifecycle%3D0%26p_p_state%3Dnormal%26p_p_mode%3Dview%26p_p_col_id%3Dcolumn-2%26p_p_col_pos%3D1%26p_p_col_count%3D2（最終アクセス2021年5月5日）。

² 在日ロシア大使館ホームページ：https://tokyo.mid.ru/web/tokyo-ja/consular-news/-/asset_publisher/leWNR9wO23fc/content/---244?inheritRedirect=false&redirect=https%3A%2F%2Ftokyo.mid.ru%3A443%2Fweb%2Ftokyo-ja%2Fconsular-news%3Fp_id%3D101_INSTANCE_leWNR9wO23fc%26p_p_lifecycle%3D0%26p_p_state%3Dnormal%26p_p_mode%3Dview%26p_p_col_id%3Dcolumn-2%26p_p_col_pos%3D1%26p_p_col_count%3D2（最終アクセス2021年5月5日）。

³ 2021年4月22日時点での定期便再開国は、アゼルバイジャン、アラブ首長国連邦、アルメニア、インド、ウズベキスタン、英国、エジプト、エチオピア、カザフスタン、カタール、韓国、キルギス、ギリシャ、キューバ、シリア、シンガポール、スイス、スリランカ、セイシェル、セルビア、タジキスタン、タンザニア、ドイツ、トルコ、日本、フィンランド、ベネズエラ、ベトナム、モルディブとなっている。在ロシア日本国大使館ホームページ：https://www.ru.emb-japan.go.jp/itpr_ja/20210423.html（最終アクセス2021年5月5日）。

⁴ 在日ロシア大使館ホームページ：https://tokyo.mid.ru/web/tokyo-ja/consular-news/-/asset_publisher/leWNR9wO23fc/content/---244?inheritRedirect=false&redirect=https%3A%2F%2Ftokyo.mid.ru%3A443%2Fweb%2Ftokyo-ja%2Fconsular-news%3Fp_id%3D101_INSTANCE_leWNR9wO23fc%26p_p_lifecycle%3D0%26p_p_state%3Dnormal%26p_p_mode%3Dview%26p_p_col_id%3Dcolumn-2%26p_p_col_pos%3D1%26p_p_col_count%3D2（最終アクセス2021年5月5日）。

⁵ 在ロシア日本国大使館ホームページ：https://www.ru.emb-japan.go.jp/itpr_ja/2021020.html（最終アクセス2021年5月5日）。

れば30,000円（証明書の受け取りは任意の時間で可）となっている。時間外の場合は予約ありで46,500円、予約なしでは50,000円となり、予約なしの場合は予約者優先でかなり待たされることになるので、出国前日の時間内に予約を入れた上で訪問し、当日搭乗手続の前に証明書を受け取るのが最も確実であろう。現状では成田～ウラジオストク線は日曜日の14:05発一便のみとなっているので、木曜日の14:05以降に検体採集を行えばよいことになる。

証明書の様式は、厚生労働省が帰国者に取得を義務づけている検査証明書のフォーム（日英併記）⁶を利用している。

成田国際空港 PCR センターの場合、予約は24時間 Web 上から可能であり、取り消しや変更（一旦キャンセルの上で新たに予約を取り直し）も無料なので、予定が決まったら早めに予約するのが確実であろう。

東京～モスクワ線の場合、出発が羽田空港第3ターミナルとなるので、東邦大学羽田空港第3ターミナルクリニック（<https://www.haneda.toho-u.ac.jp/international/information/2020PCR.html>）での検査が便利であろう。ただしこちらは成田国際空港 PCR センターと違って24時間営業ではなく、曜日に関係なく

9:00～11:30と13:00～17:30の検体採取と採取後2～4時間経過後の9:00～11:30と13:00～22:00の証明書交付になる。現状ではアエロフロートが月曜日と土曜日の8:05発、日本航空が木曜日の10:40発なので、アエロフロート利用の場合は前日に証明書の交付が終わるように、遅くとも17:30までに検体採集を済ませ、22:00までに証明書を取得しておく必要がある。こちらは料金が38,500円である。予約はホームページから24時間 Web 上で行うことができる。

3. 成田からウラジオストクへ出発

2021年2月28日、11時30分に成田空港第1ターミナル3階の成田国際空港 PCR センターを訪問し、前日に受診した PCR 検査の検査証明書を受け取る。幸い陰性であった。陽性の場合、検査結果判明後すぐにセンターから連絡が入り、保健所に連絡の上、COVID-19陽性者の扱いとなることであった。

4階に上がり、オーロラ航空のチェックインカウンターでウラジオストク行き HZ/SU5481便の搭乗手続を行う。通常通り航空券とロシアビザのチェックの後、陰性証明書を提示して、係員が氏名や帰国便の出発日、検体採集の日時などを手書

きで登録用紙に記入した後、搭乗手続が行われる。陰性証明書のチェック以外は通常と同じ手続きであった。所要時間は通常より1分程度長いくらいである。

成田空港第1ターミナル北ウイングからの同時刻の出発便はほとんどなかったため、保安検査や出国検査はガラガラであった。検査の内容は通常と同じであるが、人数が少ないので、電子機器などで X 線検査に陰が見えると通常であればそのまま通すものでも再検査となる確率が上がったような気がする。

出国審査を終えた後は、通常通りに各自搭乗ゲートに向かうが、国際線の出発便が激減しているため、多くの店が閉まっている。免税店では Japan Duty Free が開店していた。基本的な化粧品やタバコ、酒類はここで買うことができるし、オンラインで事前注文することもできる（<https://duty-free-japan.jp/narita/jp/>）。飲食店や商店の多くも閉まっていたが、セブンイレブンは開店していた。COVID-19の流行期であるためか、セブンイレブンにはポリエチレン製の使い捨て手袋（100枚入り）やウェットティッシュ、手指消毒液などが並んでいた。

定刻30分前には搭乗が始まった。飛行機に搭乗すると、客室乗務員が制服と同じ色のマスク（おそらく使い捨てではない）を付けているのが印象的であった。A-319の機内は定員のおよそ3割程度の搭乗率で、思ったより利用が多い印象であった。

飛行機はほぼ定刻に出発し、新潟県上空から日本海へと出て、一路ウラジオストクへと向かう。家からたった50キロしか離れていないところを通るのに、検査を含めると2日弱を要したことを考えると、COVID-19によってグローバル化の発達が当たり前であった時代から、日本海航路華やかかなりしころに戻ったような気がした。

機内サービスは通常通りで、それほど緊張した感じもしない。それもそのはず、国際線は PCR 検査で陰性になっていなければ乗れないので、国内線よりもずっと安全だからだ。いつもと違うのは、検疫に

写真1 成田国際空港PCRセンターのホームページ

（出所）成田国際空港 PCR センター（<https://www.nms-pcr.com/>）

⁶ 厚生労働省ホームページ：<https://www.mhlw.go.jp/content/000769988.pdf>（最終アクセス2021年5月5日）。

ついでに質問用紙(A4表裏)が配られ、到着までに滞在先の住所や電話番号、滞在日数などを記入しないと行けなかっただけであった。

4. ウラジオストク到着と ウラジオストク市内の様子

ウラジオストク到着後の手続きは、降機前に検疫官がサーモグラフィーで全乗客の体温を測定し、異常値がないことを確認するまで降機できなかったことを除くと、驚くことに通常と全く変わらず、入国審査(パスポートのさまざまなページを拡大鏡とブラックライトでつぶさに観察するのも通常と同じ)と荷物の受け取り、税関検査であった。機内で記入した質問用紙は最後まで回収されなかった。筆者が到着した時にはなかったが、2021年3月14日以降は無作為抽出でCOVID-19の検査が行われるとのことなので、たまたま対象者になった場合には、空港から出られるのが若干遅れることになるであろう。

空港から市内までは公共交通機関の利用を避けるべく、レンタカーを利用した。ウラジオストク空港にはレンタカー会社が3社入っており、このうち朝の営業時間が一番早い(8:00から)エイビスレンタカー(<https://www.avissrussia.ru/>)を予約した。

貸し出しの手続きは米国や豪州、韓国と変わらず、パスポートと免許証を提示して、予約を確認する。韓国からの観光客がレンタカーを借りる例が多かったようで、外国人の扱いには慣れており、スタッフは片言の英語を話す。日本の免許証と公証付きのロシア語翻訳本を提示するが、翻訳本にはチャリと目をやるだけで、日本の免許証のコピーを取り、料金と預かり金(対人、対物、車両保険の免責額9,000ルーブル分)をカード決済して手続きは終わった。注意されたのは、ウラジオストク市内では絶対に路上駐車をしてはいけないこと(レッカー移動され、高額な料金を徴収される)、どんなに小さい事故でもその場で警察を呼んで証明書をもらうこと(困った場合にはレンタカー会社に連絡すれば、代わりに警察を呼んでくれるとのこと)、ガソリンはオクタン価95以上のものを入れること(ロシ

アではガソリンが AI-92、AI-95、AI-98 とオクタン価別に存在し、ガソリンスタンドでもこの3種類と軽油が販売されている)であった(ヒュンダイ・ソラリスのマニュアルには少なくともオクタン価92以上を入れること、とされていた)。

ウラジオストク空港からウラジオストク市内までは軽い渋滞があり、約50分で到着した。ホテルの従業員は皆使い捨てマスクを着用しているし、エレベーターの入り口にはアルコール消毒剤が設置されていた。レストランの従業員もマスクかマウスシールドを付けていた(マウスシールドに効果があるかどうかは疑問である)。このあたりの対応は日本とほぼ同じである。ホテル内のレストランには非接触式メニューの案内(スマートフォンでQRコードをスキャンするとメニューが見られる。写真2)があったが、私も含めてお客は皆、紙のメニューを見ていた。2020年の秋に感染が急速に拡大したときには、皆が感染を恐れ、電子版のメニューも人気があったそうである。

ウラジオストクでは、COVID-19の最大の危機は終わったという認識であったようだ。ホテルの泊まり客のマスク着用率は5割程度であったし、ホテルに荷物を置き、市内に出てみると、多くの人がマスクなしで歩いているのに気がついた。スーパーなど公共の建物内に入るときには約6割程度の人がマスクを着けていた。しかし、その多くが鼻を露出したいわゆる鼻マスク状態やあごにマスクを引っかけているいわゆるあごマスク状態であった。

5. ウスリースクの中国人市場

翌3月1日は、ウスリースクにある中国人市場を訪問した。この市場で活動している中国人は隣接する黒龍江省出身者が多いが、黒龍江省は中国では比較的COVID-19の感染者が多かった省である。

2010年代の後半からかつてほど繁栄が感じられなくなってきていた中国市場であったが、今回訪問したときには閑散とした状態で、商店の半分以上が閉店しており、客もまばらであった(写真3、4)。ロシア人の客は鼻マスク、あごマスク状態がほとんどであったのに対して、中国人の商人

写真2 レストランの非接触式メニューの案内



(出所) 筆者撮影

写真3 閑散とした市場



(出所) 筆者撮影

写真4 マスク装着を呼びかける表示



(出所) 筆者撮影

たちが N-95マスクを装着していたのが対照的な光景であった(実際にはロシアの方が人口あたりの死亡率が高い)。

多くの店が閉じていた要因としては、COVID-19の影響で口中間の陸上物流が滞っていることがあげられる。そのほか、外出が控えられたせいもあり、繊維製品の需要が減少したこともあげられるであろう。中国の食品類については、在留中国人を含め、ある程度の需要はあるようであり、新規の入荷があることを確認できた(写真5、6)。

6. ウラジオストクからモスクワへ

2021年3月3日にウラジオストクからモスクワに国内線を利用して移動した。国内線の利用には日本と同じく、空港および機内でのマスクの着用が必須であるが、PCR検査は必要なく、搭乗手続きや保安検査、飛行機を待つ間の行動、搭乗はすべて通常通りであった(写真7、8、9)。

空港内ではマスクの着用が義務づけられているので、マスク着用率はほぼ100%であったが、鼻マスクやあごマスクはかなりの確率で見られた。筆者が訪問した時期にはワクチン接種はそれほど進んでいなかったもので、すでに COVID-19に罹患したことのある人々を中心にマスクをそれほど厳密に着用しないようであった。

写真5、6 ウスリリスクで購入した中国で製造されたトウモロコシ麺(表、裏)



(出所) 筆者撮影

機内では4時間に1回マスクを交換するようになっており、バイカル湖北端を過ぎた頃とモスクワ到着前の計2回、客室乗務員が新しいマスクをくれ、古いマスクを回収するゴミ袋を持って巡回していた。機内では飲食時以外(特にトイレに行く時)にマスクをしていないとマスクの着用を促されるようであったが、日本と比べてもやんわりとした注意で、注意された側も「仕方ないな」という表情で素直に従っていた。米国や欧州のいくつかの国のようにマスクを着用するかどうかで社会が分断されている感じではなかった。

7. モスクワ到着とモスクワ市内の様子

国内線の場合、モスクワ・シェレメチボ空港到着後の手続きは通常通りで、荷物を受け取るとすぐに到着ロビーに出ることができる。空港ターミナルからの交通は筆者が到着した時には通常通りの運行で、筆者が到着したターミナルB(シェレメチボI)からアエロエクスプレスの駅があるターミナルE(シェレメチボII)までは地下にある新交通システムを利用しての移動であった。ターミナルBから地下鉄2号

写真7 ウラジオストク空港の搭乗者の列



写真8 ウラジオストク空港出発ロビー



写真9 ウラジオストク空港の国内線出発ラウンジ(制限区域内)



(出所) 筆者撮影

線（ザモスクヴォレーツカヤ線）のホヴリノ（Ховрино）駅を結ぶ直通バスが運行しており、有料の高速道路経由で渋滞がなければ20分程度で到着することである（料金200ルーブル）。

モスクワの地下鉄（写真10～13）では写真14のように、マスクに加え、使い捨て手袋の使用が義務化されている。筆者が訪問した時期には、筆者も含め、防寒用以外の手袋を着用している客はいなかった。また、写真15のように、通勤ラッシュ時にはマスクの着用率が上がるが、通常は特に若い世代を中心にマスクを着用しない乗客が目立った。

そのため、宿泊していたホテルでは写真16のような使い捨てマスクと使い捨て手袋をセットにした外出キットを無料で配布していた。ロシアで配られているマスクは、ゴムの部分が弱く、4～5時間着けているとゴムが伸びてくるので、自然と1日に数回マスクを交換することになる。手袋は天然ゴムかニトリルゴムのものがほとんどなので、ラテックスアレルギーの人は、感染状況の変化による使い捨て手袋義務化を想定し、念のため日本からポリエチレン製の使い捨て手袋を持っていた方がよいらろう（日本では100枚400円程度で売られており、ロシアで買うより安い）。

モスクワ市内の様子を見ると、屋外ではマスクをしている人は非常に少なく、鼻マスクやあごマスクを含めるとほぼ全員が正しくマスクを装着しているとは言えない（写真17、19）。例外は警察官や郵便配達員の職員など公務員かそれに準ずる職業の人々、商店の販売員などである。要するに仕事でマスクの着用が義務づけられていない限り、屋外ではマスクは着用しないのが普通になっていたと言える。

ただし、マスクを一切着用しないというわけではなく、屋内や地下鉄駅構内に入るときに、マスクを取り出す人は半分以上おり、屋内や人混みではマスクをすることがある程度習慣化されてきたようであった。

モスクワ市内の商店やレストランは、筆者が訪問したときにはほぼ通常の営業体制であった。レストランも商店も以前よりも客は少なめのところが多いようであった。カフェや喫茶店はほぼ以前と同じくらいの客入りのところも増えているようで、筆者とし

写真10 モスクワの地下鉄車内



（出所）筆者撮影

写真11 マスク着用を促すポスター



写真12 モスクワの地下鉄車内



（出所）筆者撮影

写真13 駅にある消毒液噴射機



写真15 通勤ラッシュ時はマスク着用率アップ



写真14 マスクと手袋は義務



（出所）筆者撮影

写真17 モスクワ市内の様子



写真16 ホテルで配っていた外出キット



(出所) 筆者撮影

写真18 閉店した店



(出所) 筆者撮影

写真19 モスクワ市内の様子



ては密になるので避けたいと感じるところがいくつかあった(東京都心と同じか、少し混んでいる程度)。地価の高い市内中心部では写真18のように閉店した店も散見された。

8. 日本帰国のための要件と 帰国のための COVID-19 陰性証明の取得

日本帰国のための要件⁷は、筆者が帰国した際と現在では変化があり、帰国便の出発時間から72時間前以内に検体を

採取した COVID-19の陰性証明書(検体採集の方法や検査方法に指定がある)が必要なほか⁸、現在は日本国内で使用できるスマートフォンを所持することが前提となっている(所持していない場合には、レンタル⁹するか、拒否して検疫所の指定する施設で14日間過ごすことになるかの二者択一を迫られる)。また、到着して検疫を受ける前に電子質問票¹⁰に必要な事項¹¹を入力して、QRコードを取得しておかないと、空港にある端末を利用して自分で必要情報を入力する必要があり、大変面倒である。

2021年5月5日現在、極東連邦管区やモスクワ市、モスクワ州は「国内で変異ウイルスの感染者が確認された国・地域」に指定されていないが、ウリヤノフスク州(2021年3月21日)、スヴェルドロフスク州、ダゲスタン共和国(同年4月14日)、トヴァ共和国、クラスノヤルスク地方(同月28日)が現在、指定対象になっている。これらの地域に日本帰国前14日以内に滞在歴がある場合、検疫の強化の対象になるとされるが、実際にはロシアからの帰国者全員がその可能性があると思なされると考えた方がよい。具体的には、空港検

⁷ 厚生労働省ホームページ:https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00209.html (最終アクセス2021年5月5日)。

⁸ 厚生労働省ホームページ:https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000121431_00248.html (最終アクセス2021年5月5日)。

⁹ 株式会社ビジョンホームページ:<https://www.vision-net.co.jp/news/20210319002098.html> (最終アクセス2021年5月5日)。

¹⁰ 厚生労働省ホームページ:<https://arqs-qa.followup.mhlw.go.jp/#/> (最終アクセス2021年5月5日)。

¹¹ 日本到着日、航空機の会社名と便名、帰国便の座席番号、氏名、国籍、性別、生年月日、国内の住所または居所もしくは滞在先ホテルの名称やチェックイン、チェックアウト日と電話番号、国外居住者のみ日本の出国予定日と出国する航空機や船舶の情報、過去14日以内に滞在した国(地域)のうち最新の3つ、体調や感染者との接触について、日本到着後14日の間の待機場所、待機場所まで公共交通機関を利用せずに移動できる手段があるかどうか、メールアドレス(入国者健康確認センターとSkypeで連絡を取る連絡先と同じであることが望ましいがWhatsAppも使える)、WhatsAppを使う場合の電話番号(国番号から。日本の番号でなくてもよい)、日本国内で通話可能な電話番号。

疫で当該国からどれくらい日本の帰国時の検査での感染者が出ているかが指標になるようである¹²。

日本帰国のための陰性証明書の取得については、在ロシア日本国大使館ホームページ¹³にいくつかの検査機関が紹介されている。筆者はこのうち、シェレメチボ空港ターミナル B と D に検査ブースのあるアルヒメッドという会社を選択した(写真20)。この会社の場合、予約というよりは検査申し込みを Web 上でを行い、支払いまで行った後、QR コードの付いた確認票を持って検査ブースを訪問する方法で検査を受ける。2021年5月5日現在、日本の空港での検疫で受け入れられる検査方法を行っているのはターミナル D にある検査ブースだけなので、ターミナル D で検査を行うことが望ましい(写真21)。料金は

1,800ルーブル(約2,520円)であった。

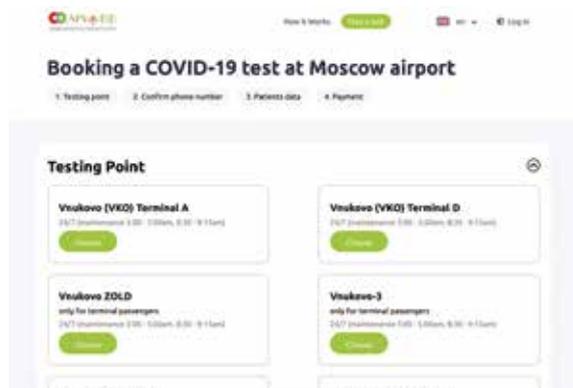
筆者はモスクワからウラジオストクまで国内線で移動し、そこから東京行き国際線に搭乗することにしたので、帰国便の出発する3月7日11時15分(ウラジオストク時間)から72時間前(時差を考慮すれば65時間前)以内に検体を採取した検査証明書が必要となる。そのため、モスクワ出発前日の3月4日の夕刻にシェレメチボ空港ターミナル D にある検査ブースを訪問した。

モスクワに到着するロシア人は、到着後72時間以内にPCR検査の結果を届け出る必要があるらしく、筆者がシェレメチボ空港ターミナル D に着いた時には写真21のように長蛇の列であった。並んでいる人の荷物に付いたタグから推測すると、米国からの到着便などから子供連れを含む

多くの人が出てきた直後であり、1時間たつてやっと写真22のように、ブースの入り口が見えてきた。結局、検査を受けられたのは到着してから1時間40分後で、それまではベンチもないロビーの列に並ばざるを得なかった。検査にかかった時間はわずかに2分、検査に来た人が多かった上に、検査結果を入力するパソコンに不具合があったことが原因のようだった。3月6日の出発前に証明書を取りに来た際には、写真23のようにガラガラだったので、到着便が集中しなければそれほど待ち時間はないようである。

この会社の場合、検査が終わると事前に登録されたメールアドレスに検査証明書の PDF 版が送られてくる。筆者にも送られてきたが、証明書の国籍欄が「ロシア」になっており、会社に電話して訂正しても

写真20 空港でPCR検査を行う会社のホームページ



(出所) Arhimed ホームページ (<https://labarhimed.ru/>)、筆者撮影

写真21 シェレメチボ空港ターミナルDの検査ブース



写真22 やっと入り口が見えてきた



(出所) 筆者撮影

写真23 証明書受け取り時のブース



¹² 厚生労働省ホームページ https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html (最終アクセス2021年5月5日)の「更新情報」に空港検疫での陽性率が発表されている。

¹³ 在ロシア日本国大使館ホームページ https://www.ru.emb-japan.go.jp/itpr_ja/coronavirus.html (最終アクセス2021年5月5日)

らった。検査技師や医師は英語を話す
が、電話受付はロシア語だけなので、ホ
テルのスタッフにお願いして事なきを得た。
書類の内容は何度も確認した方がよいと
いうのが教訓であった。

9. モスクワからウラジオストク 経由成田への旅程

モスクワからウラジオストクまでは国内線
がメインのシェレメチボ空港ターミナル B で
手続きを行った。通常、モスクワからウラ
ジオストク経由で東京までの搭乗券を発
行できるようになっているが、陰性証明書
のチェック（実は、何もなかった）をウラジ
オストク空港で行う可能性もあるので、搭
乗券、荷物ともにウラジオストクまでとした。
最初に成田までの荷物タグが出てきたの
で、ウラジオストクまでに変更してもらった
が、このときの係員が、成田までのタグを
取り消さなければならないところ、ウラジオ
ストク行きのタグを取り消したため、筆者
の荷物はモスクワで迷子になり、結果、1
週間遅れて成田に到着することになった。
防寒着と着替えを入れたサブバックで、日
本はすでに春であったため事なきを得た。
モスクワの空港職員は自国からの国内線
が辺境の都市から出ることに慣れていな
いようであった。羽田空港から福岡空港経
由で韓国行きのフライトに乗るようなもの
で、あまり例がないためであろうか。

ウラジオストク空港では、2つあるうちの
荷物が1つしか出てこなかったため、紛失
の処理を行った。トラブルが起きたとき
には、できるだけその場で処理を行い、書
証を残しておくのがよい。筆者の場合も、
成田空港の荷物カウンターでウラジオスト
ク空港で未着の処理をしたときの書類を出
すと、職員が大変喜んでくれ、写真を撮
ってモスクワに送ると言っていた。

ウラジオストク空港での東京行きの搭乗
手続きは日本人に対しては、まだ陰性証
明書の確認は行っていなかった。現在は、
日本国籍者であっても検査証明書がな
ければ入国出来ないため、搭乗手続き時に

チェックを行うはずである。その後、通常
通り税関検査（乗客が少なく暇なので、
色々質問してくる。特に携帯している
現金の額を尋ねられるので、1万米ドル以
上の支払手段を携帯している場合には1
階の税関で申告をしないと現金が没収さ
れるので注意が必要）と保安検査、出国
審査を受け、飛行機に搭乗した。

10. 成田到着後の手続と新潟 への移動

成田空港到着後は、通常通り降機した
が、その後検疫のために2時間ほど1キ
ロ以上の徒歩での移動を要した。まず、
前述した質問票の QR コードを持っている
かをチェックされ、持っていると言ったの
に「持っていないだろう」と決めつけた非
常に悪い態度での対応であった。その場
で抗議したところ、「入力していない人がほ
んどなので」と言っていたが謝りもしな
かった（公務員ではなく、委託の業者のよ
うである）。QR コードを持っていない
人が検疫の受付にやってくると、入力す
る端末のある場所まで200メートルほど
逆行しなければならず、それを案内する
人員をさかなければならぬので、そう
しているのであろうと感じた。

検疫の受付で、パスポート、陰性証明
書、質問票の QR コードを提示し、検
査用紙を受け取る。その検査用紙を持
って唾液の抗原検査（今後は PCR 検
査になる予定＝増幅率を上げすぎると
陽性率が上がる）を受け、現在は使
っていない第1サテライトが待機室とな
っているためそこで30～45分待つ。
検査用紙に書かれた検体番号が呼ば
れて、無事陰性であることが確認さ
れるとやっと入国審査を受けること
が許され、その後は通常通り税関検
査の後、到着ロビーに出ることができる。
筆者の場合、1週間後に到着する荷
物の通関の書類を作成するために1時
間ほど余計に要したが、通常は到着
から1時間半程度で出てこられるよ
うだ。

到着ロビーに出た後は、特に監視はな

く、自由に行動できる。公共交通機関
を使おうと思えば、実際には不可能
ではない（第3ターミナルに LCC の
国内線が発着するため、特に第2
ターミナルには荷物を持った旅行
者が多い）。筆者の場合は、レンタ
カーを予約してあったので、レ
ンタカー会社に連絡して、迎えに
来てもらう。電話してから15分
ほどで迎えが来て、レンタカー
会社の事務所で貸し出し手続き
をして、新潟への帰路についた。
成田空港から新潟までは東京
都内を通るルートと、常磐自動
車道でいわき市まで行き、磐
越自動車道で郡山、会津若松を
経由するルートがあるが、筆者
は後者を選択した。新潟では3
月末まではスタッドレスタイヤ
が標準装備であるが、成田を
含めた関東圏はそうではない
ので、スタッドレスタイヤの
装着を事前に予約する方が安
心である。

おわりに——帰国後の自己隔離 期間の過ごし方

日本の14日間の待機は、公共交通機
関の不利用と不要不急の外出の自
粛なので、マスクを着用し、人混
みのない時間を選んで必要最小
限の買物や運動のための外出を
することは禁じられていない。
ただし、スマートフォンの位置
情報を保存する必要があるため
、長時間の外出は記録されるし
、現在では位置情報を通報する
よう要請されれば、位置を通報
しないと行けないので、指定さ
れた住所から離れることはでき
ない。したがって、自宅や親戚
宅などで滞在できる人はよい
が、そうでない場合には食事や
生活必需品の購入、洗濯などの
サービスが付いたホテルを選
ぶ必要が出てくるであろう。検
疫所の提供するバスサービスや
京成電鉄が提供するスカイライ
ナーとハイヤーを組み合わせた
サービスを利用して、近隣に
コンビニエンスストアがあり、
洗濯機が室内にあるホテル等
を探して利用するようすれば、
ホテルでの自己隔離期間ある
程度快適に過ごすことができ
るであろう。